

番号	学校名	指定期間
27-10	昭和学園高等学校	27～31

平成27年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第1年次）（概要）

1 研究開発課題	<p>社会人基礎力を備え、地域社会に貢献できる看護師の育成</p> <p>－ 5年一貫で看護師を目指す高校生の人間としての成長をサポート －</p>		
2 研究の概要	<p>地域唯一の看護師養成校であり、国家試験合格のみでなく、多様な対象者に対応できる社会人基礎力を備えた人材の安定的な輩出を期待されている。目的意識を持って入学しても、学年進行に伴い学習量の多さや難しさが負担となり、「やらされ感」を感じ進路変更に至るケースがある。また、実習施設から社会人としてのマナーやメンタル面の弱さを指摘されることがある。</p> <p>これらの課題に取り組むため、経済産業省の社会人基礎力に注目した。社会人基礎力とは、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力であり、社会で看護師として働くためには、基礎学力、専門知識技術と、それらを生かす能力として「社会人基礎力」が必要となる。豊かな人間性や基本的な生活習慣は、全ての基盤であり、様々な経験や活動を通して、相互に影響し合いながら高まっていくものである。5年一貫で看護師を目指す高校生の人間としての成長を願い、「豊かな人間性」「課題解決能力」「社会人基礎力」の3つの柱で様々な事業に取り組んだ。</p>		
3 平成27年度実施規模	<p>看護学科を対象として実施した。</p>		
4 研究内容	<p>○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">第1年次</td> <td> <p>【豊かな人間性】</p> <p>a 異学年交流</p> <p>① 1～3年交流会 ② 3年による1年臨地実習前身だしなみチェック</p> <p>③ 5年助言による1年他クラスへの手洗い指導 ④ 1～3年グループ活動</p> <p>⑤ 国家試験激励 ⑥ 1・2年生と卒業生懇談会 ⑦ 3年4年交流会</p> <p>b 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流</p> <p>① APU 国際学生との交流</p> <p>② APU 国際学生を招待しての交流</p> <p>③ APU 交流について5年生へ学びの報告</p> <p>c 人権教育</p> <p>① 校父母祭法要</p> <p>② 3年上山研修</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a 教員研修 反転授業・シミュレーション教育研修</p> <p>b 反転授業・シミュレーション教育</p> <p>c 認定看護師等による特別講義</p> <p>① 1年 感染看護一手指消毒法</p> <p>② 4年 フィジカルアセスメント</p> <p style="padding-left: 20px;">精神科リハビリテーション、社会資源、精神科における作業療法</p> <p style="padding-left: 20px;">緩和ケア、スキンケア及び人工肛門造設患者の看護</p> </td> </tr> </table>	第1年次	<p>【豊かな人間性】</p> <p>a 異学年交流</p> <p>① 1～3年交流会 ② 3年による1年臨地実習前身だしなみチェック</p> <p>③ 5年助言による1年他クラスへの手洗い指導 ④ 1～3年グループ活動</p> <p>⑤ 国家試験激励 ⑥ 1・2年生と卒業生懇談会 ⑦ 3年4年交流会</p> <p>b 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流</p> <p>① APU 国際学生との交流</p> <p>② APU 国際学生を招待しての交流</p> <p>③ APU 交流について5年生へ学びの報告</p> <p>c 人権教育</p> <p>① 校父母祭法要</p> <p>② 3年上山研修</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a 教員研修 反転授業・シミュレーション教育研修</p> <p>b 反転授業・シミュレーション教育</p> <p>c 認定看護師等による特別講義</p> <p>① 1年 感染看護一手指消毒法</p> <p>② 4年 フィジカルアセスメント</p> <p style="padding-left: 20px;">精神科リハビリテーション、社会資源、精神科における作業療法</p> <p style="padding-left: 20px;">緩和ケア、スキンケア及び人工肛門造設患者の看護</p>
第1年次	<p>【豊かな人間性】</p> <p>a 異学年交流</p> <p>① 1～3年交流会 ② 3年による1年臨地実習前身だしなみチェック</p> <p>③ 5年助言による1年他クラスへの手洗い指導 ④ 1～3年グループ活動</p> <p>⑤ 国家試験激励 ⑥ 1・2年生と卒業生懇談会 ⑦ 3年4年交流会</p> <p>b 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流</p> <p>① APU 国際学生との交流</p> <p>② APU 国際学生を招待しての交流</p> <p>③ APU 交流について5年生へ学びの報告</p> <p>c 人権教育</p> <p>① 校父母祭法要</p> <p>② 3年上山研修</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a 教員研修 反転授業・シミュレーション教育研修</p> <p>b 反転授業・シミュレーション教育</p> <p>c 認定看護師等による特別講義</p> <p>① 1年 感染看護一手指消毒法</p> <p>② 4年 フィジカルアセスメント</p> <p style="padding-left: 20px;">精神科リハビリテーション、社会資源、精神科における作業療法</p> <p style="padding-left: 20px;">緩和ケア、スキンケア及び人工肛門造設患者の看護</p>		

	<p>【社会人基礎力】</p> <p>a 特別活動</p> <p>①マナー講習 ②1年看護専門職者の話を聴く会</p> <p>③5年卒業生との交流会 ④ワークライフバランス講座</p> <p>⑤健康教育</p> <p>b ボランティア活動</p> <p>c 社会人基礎力調査・生活習慣調査</p>
第2年次	<p>【豊かな人間性】</p> <p>a 人権教育</p> <p>①宗教授業、校父母祭法要・記念講演会</p> <p>②ナイチンゲール生誕祭</p> <p>b 異学年交流</p> <p>①1～3年交流会 ②1～3年縦割り班によるグループ活動</p> <p>③1・3年、2・3年実習前交流会</p> <p>④5年助言による1年他クラスへの手洗い指導実施</p> <p>c 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流</p> <p>①APU 国際学生との交流</p> <p>②APU 国際学生を招待しての交流</p> <p>③APU 交流について5年生へ学びの報告</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a アクティブラーニング</p> <p>①アクティブラーニングを取入れた授業の実施</p> <p>②研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2年：仲間と共に伸びる学び方／安永 悟先生 ・教 員：講師招聘による研修／安永 悟先生 2回 「アクティブラーニングと協同学習」 2回目は、研究授業後に実施する。 ・外部研修：「今どきの若者の論理的思考力を高める教育法」 <p>b 特別講義</p> <p>①認定看護師による特別講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年 看護専門職者の話を聴く会 ・1年 基礎看護「感染管理認定看護師（標準予防策、手指消毒法）」 ・2年 基礎看護「皮膚・排泄ケア認定看護師（皮膚の生理機能をふまえた清潔の援助）」 <p>【社会人基礎力】</p> <p>a 調査</p> <p>①在校生と卒業生の社会人基礎力調査</p> <p>②家庭における生活習慣調査</p> <p>b 5年 キャリア講座</p> <p>c ボランティア活動</p> <p>d 健康教育 楽しく運動、自分の健康・市民の健康意識向上に貢献します！</p> <p>①運動に関する講演及び実技指導</p> <p>②4年 ウォーキング推進活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング体験及び動画作成 ・11月 作成動画発表会

	③ 5年 臨地実習／日田市役所、教育学演習／咸宜大学（日田市高齢者教室） ④ 5年 近隣寺院における健康教育
第3年次	前年度成果の改善実施 健康ひた21計画にそった『健康昭和21』の展開 日田市との連携 学生による発表・講演会の企画・運営 健康教育ー楽しく運動、日田市民の健康増進に貢献します！継続 栄養・食生活の取り組みー調理科との連携 在宅認知症高齢者オレンジカフェ日田への協力
第4年次	前年度成果の改善実施 健康ひた21計画にそった『健康昭和21』の展開 日田市との連携 健康教育ー日田市内の小中学校で楽しい運動の指導をする。 在宅認知症高齢者オレンジカフェ日田への協力ー福祉科との連携
第5年次	前年度成果の改善実施 健康ひた21計画にそった『健康昭和21』の展開 日田市との連携 日田市健康福祉祭り協力 健康教育ー日田市内の小中学校で楽しい運動の指導をする。継続 在宅認知症高齢者オレンジカフェ日田への協力ー福祉科との連携 継続

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

○平成27年度の教育課程の内容（平成27年度教育課程表を含めること）

学年	科目	項目	担当者	9月			10月			11月			12月			1月		
2年	基礎看護技術	基礎実習オリ 演習	佐竹 松井				基礎実習前											
3年	臨床看護概論	呼吸・循環に関する 症状を示す患者の看護	松井							演習								
4年	在宅看護 方法論Ⅰ	看護過程 演習	小野							看護過程 演習								
4年	成人看護学 方法論Ⅱ	看護過程	五島										看護過程					
4年	母性看護学 方法論Ⅰ	沐浴、妊娠期の看護 ／計測、レオポ ルド触診法	武内										演習					
4年	母性看護学 方法論Ⅰ	看護過程	武内										看護過程					
4年	精神看護学 方法論Ⅱ	看護過程	永楽							看護過程								
5年	看護の統合と 実践	演習	五島							演習								

○具体的な研究事項・活動内容

【豊かな人間性】

- ・ 1～3年交流会 (6月10日)
- ・ 3年による1年臨地実習前 身だしなみチェック (9月2日)
- ・ APU(立命館アジア太平洋大学)国際学生との交流 (7月7日)
- ・ 人権教育 校父母祭 (10月28日)
- ・ APU(立命館アジア太平洋大学)国際学生を招待しての交流 (11月11日)
- ・ 5年助言による1年手洗い指導 (12月4日、9日)
- ・ APU(立命館アジア太平洋大学)国際学生との交流について5年に学びの報告 (1月15日)
- ・ 国家試験激励 (2月12日)
- ・ 3年4年交流会 (2月18日)
- ・ 人権教育 (3年上山研修) (3月3日～6日)

【課題解決能力】

- ・ 教員研修
 - a 現場で活躍できる看護師を育てる教育／協同学習・反転授業 (8月2日)
 - b 指導者のためのシミュレーション研修会 (8月19日～20日)
 - c 授業力UPのポイント～学生の活動性を高める授業づくり～ (9月19日)
 - d 思考過程を身につけるシミュレーション授業講座 (11月15日)
- ・ 反転授業
 - a 1年生 基礎看護技術 足浴 (11月)
 - b 2年生 基礎看護技術 浣腸 (11月～12月) 実地調査
 - c 3年生 基礎看護技術 皮下注射 (11月)
- ・ シミュレーション教育
 - a 2年生 基礎看護技術 基礎実習オリエンテーション (9月)
 - b 3年生 臨床看護概論 呼吸・循環に関する症状を示す患者の看護 (10月～11月)
 - c 4年生 在宅看護方法論Ⅰ 看護過程・演習 (11月)
 - d 4年生 成人看護方法論Ⅱ 看護過程 (11月)
 - e 4年生 母性看護学方法論Ⅰ 沐浴、妊娠期の看護／計測・レオポルド触診 (12月)
 - f 4年生 母性看護学方法論Ⅰ 看護過程 (12月～1月)
 - g 4年生 精神看護学方法論Ⅱ 看護過程 (11月)
 - h 5年生 看護の統合と実践 演習 (10月)
- ・ 認定看護師等による特別講義
 - a 1年生 感染看護 (10月14日)
 - b 4年生 フィジカルアセスメント (11月10日、16日)
 - c 4年生 精神科リハビリテーション、社会資源 (11月9日～11月30日)
 - d 4年生 精神科における作業療法 (12月14日)
 - e 4年生 緩和ケア (12月15日、19日)
 - f 4年生 スキンケア、人工肛門造設患者の看護 (1月18日)

【社会人基礎力】

- ・ 特別活動
 - a マナー講習 (7月)
 - b 1年生 看護専門職の話を聴く会 (6月16日)
 - c 5年生 卒業生との交流会 (8月3日、1月21日)

- d ワークライフバランス講義 (9月25日)
- e 健康教育
 - 3年生 小児看護実習 こども園にて実施 (6月15日～19日)
 - 5年生 日田市役所実習で住民に対して実施 (6月～11月)
 - 5年生 教育学/咸宜大学で受講生に対して実施 (10～11月)
 - 5年生 西光寺 仏教婦人会に対して実施 (10月21日)

- ・ボランティア活動
- ・社会人基礎力調査、生活習慣調査
 - a 第1回調査 平成27年5月22～27日
 - b 第2回調査 平成28年1月下旬

5 研究の成果と課題

○実施による効果とその評価

【豊かな人間性】

異学年の交流会後アンケートを実施した結果、同じ学科であるが異学年で会話をもつ機会があまりないため、交流の機会を設けることが今後の交流のきっかけとなった。異学年交流は、協調性、主体性の育成を促進するものである。

2回のAPU(立命館アジア太平洋大学)国際学生との交流のアンケートによると、国際学生との英語での会話体験を通じ、コミュニケーション能力の向上が感じられることから、国際学生との交流は他者理解や主体性育成に効果があると推察された。

校父母祭法要や講演を通じ、命の大切さ、生まれてくる喜び、生きる意味や愛、本当に大切なものについて学び、周囲に感謝し自分らしく前向きに生きていくことが確認でき、自己理解につながっていると考える。3年生東本願寺での上山研修では、メンバーと協力しながら自主的に行動すること、講話で自分は一人尊いものとして他人と比べることはないということ、先輩の話から基礎の学習の必要性を聞き前向きな取組みの必要性を確認した。専攻科への進級への気持ちを再確認するとともに看護者を目指す意識を高めることにも繋がっている。来年度は本校独自の教科である宗教の授業にも着目し、生徒の心の成長や変化への影響をとらえていきたい。

【課題解決能力】

生徒が主体的に学び、自ら学ぶ楽しさを経験できるようになり知識や技術の習得を図ることをねらいとしてきた。教員は研修後、研修報告を行い看護学科内で研修内容の共有を図っていった。研修内容をふまえて反転授業やシミュレーション教育を取り入れ、各科目で様々な点(事前課題の取組み、授業における導入の工夫・小テストの取組み・視聴覚教材の活用・グループ活動・タブレットの活用および振り返りなど)を工夫して取組んだ。取組みを始めてから生徒や学生が授業に意欲的・積極的に参加するなど、表情や言動の変化がみられた。また、グループ活動を取り入れたことにより、生徒同士で話し合い、自分たちで考え取組む場面がみられるようになった。個人では考えることが出来ないことをグループで考え答えを導き出し、お互いに協力しながら意見を言うことが出来ていた。「新しい知識が身につく楽しい」や「充実感がある」などの感想が聞かれた。タブレットを活用した授業では、撮影した動画を見て、自分が行った技術を客観的に振り返り、グループでお互いに意見交換をして新たな気づきを得ることが出来ていた。タブレットで撮影したものは個人やグループで確認して振り返ることを行ってきたが、次年度はさらにクラス全体で確認して共通認識をもち振り返りが出来るようにしていきたい。また、思考力や判断力、そして表現力を身につけていくためにも、論理的思考に基づく言語技術(聴く・話す・読む・書く・見る)の獲得を目指していけるような授業を取り入れていきたいと考えている。

授業前後の生徒アンケート結果では、事前学習を含め家庭学習時間が増え、授業内容が理解できたと答える者が増加していた。

教員も「生徒主体の授業」「教えるより考えさせる」と授業に対しての意識の変化がみられた。

認定看護師等による特別講義を受けることで生徒や学生の反応も良く刺激になり充実した授業となった。「認定看護師を目指したい」などの前向きな感想も聞かれ、1年生から設定したことは生徒の意識づけになり効果的であった。病院と連携した授業を今後も取り入れていきたい。また、授業や実習の取組みのなかで自分の出来ていないことに気づき課題を見つけることについては、学年があがるにつれて少しずつできている。今後、様々な経験を重ねていくことにより、日常生活の中でも、自らの課題をみつけ解決していく力につなげていきたい。

【社会人基礎力】

今年度は、生徒・学生が社会人基礎力について知り、意識することから始めた。

「発信力」を高めるために、授業、実習、ボランティア活動の中で意識して取組んだ。ボランティア活動や健康教育を行うことは、発信力を高める機会となった。また、臨地実習において積極性や挨拶等苦手な者でも、ボランティア活動ではできたと自己評価している。普段関わることのない異年齢の方との交流や感謝の言葉は、自信や喜びにつながっている。このような体験を積み重ねることで、行動の変化が期待できる。次年度も継続していく。

「自己管理能力」は、「自分の生活を整える」と「ルールや人との約束を守る」を挙げ、生活習慣調査を行った。学生の「できる」と教員の「できる」の判断の違いも考えられた。また、家庭におけるしつけも大きく影響するため、保護者にも協力を求め取組む。「ルールや人との約束を守る」は、人として当たり前でできなければいけない。その為、特別な活動ではなく、学校生活全般や臨地実習において指導した。評価は、社会人基礎力の規律性で判断した。2回目の調査では、「3：いつもしている、できている」を選択した生徒・学生が増え全体の54%を占めた。学年別では、5年生以外の学年は1回目と同じ値（1年41%）あるいは上昇していた。5年生のみ、48.2%に下降していた。5年生は、臨地実習等でできない体験や他者評価が影響し、慎重な判断の結果と考える。「ストレスコントロール力」を高めるために、卒業生との交流会を行った。様々な困難を乗り越え、希望する進路が達成できることをねがって、交流会を実施した。ピアサポートの効果があり、ストレスコントロール力を高めるために有効であった。次年度も引き続き5年生と卒業生の交流会を企画する。

平成27年度社会人基礎力調査の結果を事業前後の変化について、t検定を行った。296名中欠席と回答漏れを除いた287名を対象とした。能力要素12項目に倫理性を加えた13項目のうち、主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・柔軟性・状況把握力・規律性・倫理性の11項目について、有意（ $p < .05$ ）に高い得点を示しており、傾聴力・ストレスコントロール力は有意傾向（ $p < .1$ ）であった。

○実施上の問題点と今後の課題

3つの柱で様々な取組みをした。大半の者が意欲的に楽しそうに取り組んでいた。各事業ごとに生徒学生の意識を確認するためにアンケートをとっている。結果は、役にたった、勉強になった、これからの学校生活に活かしていきたいとする者が多く、その瞬間は効果があったように感じるが、実際には継続できていないことも多かった。各学びを一つ一つ積み上げ学年進行に伴って必要な社会人基礎力を身につけられるような取組みをすることが必要だと感じている。

授業時間外の放課後の時間を活用し活動する機会が多く、学年全体や高校全体での活動は、時間割の調整が難しく困難であった。次年度は、7限目のない日を学年で揃え、活動しやすいような配慮をしていきたい。そうすることで、主体的な活動が促進できると考える。

与えられることに慣れており、自ら考えて行動する機会が少ない。低学年のうちから課題を見出し解決していく機会を多く持てるような環境づくりが必要である。

機会あるごとに生徒学生にSPHの意義を伝え意識を持たせること、さらに学校全体の取り組みとなるようにすることが必要である。各課題が解決できるよう改善し取り組んでいきたい。